

[58]

$B = A + \frac{8}{15}$  であり  $C + \frac{5}{6}$  でもあります。

$A : C = 6 : 5$  より

$A = ⑥, C = ⑤$  とし、 $B$  を 2つの式で表します。

① = ① ですから

$$⑥ + \frac{8}{15} = ⑤ + \frac{5}{6}$$

$$⑥ - ⑤ = \frac{5}{6} - \frac{8}{15}$$

$$① = \frac{3}{10}$$

これより  $A \dots \frac{3}{10} \times 6 = 1\frac{4}{5}$

$B \dots 1\frac{4}{5} + \frac{8}{15} = 2\frac{1}{3}$

$C \dots \frac{3}{10} \times 5 = 1\frac{1}{2}$

$A \dots 1\frac{4}{5}, B \dots 2\frac{1}{3}, C \dots 1\frac{1}{2}$

[59]

C校は774人でA校より7.5%多い。

Aを1とするとCの割合は  $1 + 0.075 = 1.075$

1.075が774人にあたりますから

Aの人数は

$774 \div 1.075 = 720$  (人) ..... A

A校はB校より10%少ない

720人

Bを1とするとAの割合は  $1 - 0.1 = 0.9$

この0.9が720人にあたりますから

Bの人数は

$720 \div 0.9 = 800$  (人) ..... B校の生徒

800

[60]

1270円の予定が1330円になった。

↓

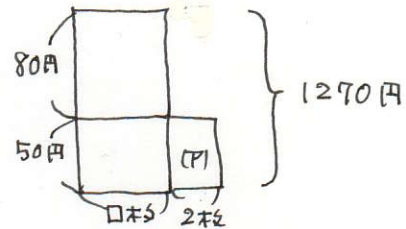
安い方(50円)を多く買う予定だった。

1枚の値段の差  $\dots 80 - 50 = 30$  (円)

代金の差  $\dots 1330 - 1270 = 60$  (円)

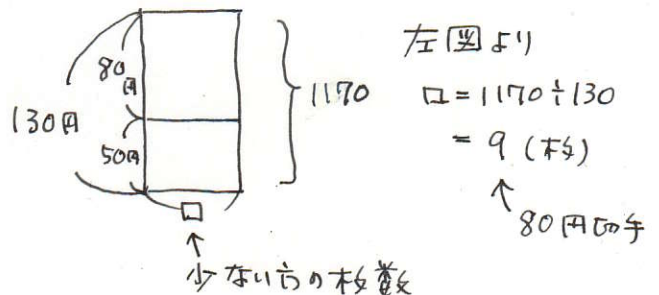
$60 \div 30 = 2$  (枚)

面積図にすると下のようになります。



(P)の面積  $\dots 50 \times 2 = 100$  (円)

全体から引くと  $\dots 1270 - 100 = 1170$  (円)



左図より

$□ = 1170 \div 130$

$= 9$  (枚)

↑ 80円切手

↑ 少ない方の枚数

したがって、

50円切手  $\dots 9 + 2 = 11$  (枚)

80円切手  $\dots \dots \dots 9$  (枚)

50円切手  $\dots 11$  枚, 80円切手  $\dots 9$  枚